大学卒業後にテニスを続ける人とやめる人，およびそれぞれの人を取りまく環境について

田邊　拓馬（生涯スポーツ学科　地域スポーツコース）
指導教員　菅井　京子

キーワード：生涯スポーツ，テニス，テニス人口

序論

公益財団法人日本テニス協会が行った「2012年度特別事業テニス人口等環境実態調査報告書」では，「テニス人口」を「1 年間に 1 回以上硬式テニスを行った人口（ただし 10 歳以上の人）」と定義し，本研究でもそう定義した．この報告書では 2001 年の日本のテニス人口は 423 万人，10 年後の 2011 年の日本のテニス人口は 373 万人とされている．そしてテニス人口はその 10 年で約 50 万人も減少していることがわかる．年代別にテニス人口を見てみると 20 代～30 代になるまでの間でテニス人口が，かなり減少している．

そこで本研究では，20 代～30 代の間のテニス人口の減少に着目し，私の身近な人たちを中心に大学卒業後にテニスを続ける人とやめる人，およびそれぞれの人を取りまく環境について明らかにする．

Ⅰ．テニス人口の変化

2001 年の 20 代は約 109.2 万人，それに対し，10 年後の 2011 年の 30 代は約 56 万人である．

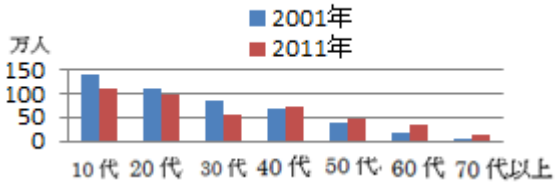

図１．年代別のテニス人口の変化

図 1. は年代別のテニス人口の変化を表したものである（出典：2012 年度特別事業テニス人口等環境実態調査報告書）．2001 年に 20 代だった人は 10 年後の 2011 年には 30 代になっていることになるので，20 代の間にテニスをやめた人は約 53 万人で，すべての年代の中でもっとも減少数が大きい．

Ⅱ．聞き取り調査および結果と考察

A スポーツ系大学，B 大学，C 大学テニス部の OB，OG を対象に 2015 年 12 月 10 日～1 月 4 日の間に電話で聞き取り調査を行った．質問項目は，年齢，性別，競技歴，戦績，職業，現在テニスを行っているか，行っていないか，行っている頻度，行っている環境，テニスをやめた理由，理由が改善されたらテニスを行うか，今後テニスを行いたいかの 11 項目であった．

A 大学では 42 人に回答を得た．その中でテニスをやめた人は 27 人（約 60%），続けている人は 15 人で（約 40%）であった．やめた理由では、就職し仕事の忙しさや，仕事の疲れでテニスを行えないというものが 27 人中 22 人（80%）であった．他には施設が近くにないと 2 人が回答した．テニスを続ける人は，15 人全員が大学卒業後の就職先をテニスコーチや実業団などテニスが行える職業にしていた．

B，C 大学では 14 人に回答を得た．テニスをやめた人は 12 人（約 85%），続けている人は 2 人（約 15%）であり，A スポーツ系大学よりやめる人の割合は多かった．その理由として A 大学はスポーツ系の大学であるため，テニスを行える職業に就くことが多くなるが B，C のような一般大学ではテニスを行える職業に就くことは非常に少ないと考えられるからである．

結論

大学のテニス部の OB，OG を調べた結果，テニスを教える仕事を除いて，就職すること自体が，その人の時間的，体力的，仲間と疎遠になるなど人的，またテニス施設使用の不便など，大きく環境が変わり，テニスをやめる人が多くなることがわかった．20 代のテニス人口の減少については，テニスコーチなどテニスが行える職業に就いた人を除き，大学などの学校から卒業後に就職することで，テニスを断念することが多くなることの影響ではないかと考えられる．

引用・参考文献

・公益財団法人日本テニス協会（2013年），2012年度特別事業テニス人口等環境実態調査報告書，6頁～10頁．